

□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム　こまくさ　※
日　付	平成16年4月27日
評価機関名	社会福祉法人　岡山県社会福祉協議会
評価調査員	・老人保健施設での相談援助業務　経験5年 ・在宅介護支援センター等での相談援助業務　経験11年
自主評価結果を見る（事業者の自主評価結果にリンクします）	
評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）	
事業者のコメントを見る （評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）※	

外部評価の結果

簡評
全体を通して（特に良いと思われる点など）
・比較的交通の便が良い住宅地の一角に建てられ、地域との交流を積極的に行なっている。 ・入居者の思い出作りとして、個人個人のアルバムを作成し、家族にも自由に見ていただけるようにし、グループホームでの歴史を綴っている。 ・入居者の個人を大切にしながらも、皆が集まり団楽としてお茶を飲む時間などを設け、その中で個別の能力を発揮できる事を見つけ、お互いが認め合うことで入居者個人の存在の意味を見つけ出している。 ・職員体制が整っており（ユニット当たり8名）、入居者のことを一番に考えた関わりをしている。 ・併設の医療機関（心療内科）が道路向かいに建っており、緊急時の対応が迅速に行えている。 ・管理者をはじめとして職員全体に、痴呆介護への研修や勉強を積極的に行っている様子がうかがえた。
特に改善の余地があると思われる点
・トイレが設備されている部屋の排泄臭が少し気になったが、職員も気がついておりすぐ改善策を考えていた。 ・グループホームの建物自体が「家風」というより「施設風」であり、その中での職員が少しでも家庭の雰囲気を出せるように、廊下に棚をつけ、昔の人形を飾ったりなどの工夫が見られたが、より一層の工夫がなされるとうっと雰囲気が良くなると思われる。 ・将来的に改築等を実施されるときには、家庭的雰囲気を大事にするものとして欲しい。 ・グループホームにおける車両の利用頻度は少ないが、必要性は高いと思われるので、専用車両の確保が望まれる。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	・入居者一人ひとりの存在感をお互いが認め、その時そのときを大切にしたい生活が出来るようにしている。 ・入居者達の歴史を大切にし、その人らしく生活できるように家庭的な雰囲気を大切にしている。 ・在宅生活が困難になった人たちが、安心して生活できる場であれば良いと願っている。 ・終末期の場としても役割が果たせるように努力している。また、在宅生活に復帰できる人の支援も忘れずに行なっている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		○
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり	○	
4	建物の外周や空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	・各々の部屋には、自分の使っていた家具等を持ち込み、家庭的な雰囲気を大切にしている。 ・フローリングの部屋にも、畳の希望があれば、畳を置き、落ち着いて生活できるようにしている。 ・共用空間にも畳の間があり、好きなところでくつろげるようにしている。また、籬段を飾るなどし、季節行事を大切にしている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にしたい整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	・入居者の部屋の扉にガラス窓があり、覗き見ができるようになっている。プライバシーの保護のため、職員が和紙を利用し貼り付ける事で、上手に目隠しになっている。 ・入居者がグループで過ごす時間を設け、お茶を飲みながら一人ひとりの経験を尊重し、お互いが認め合えるように支援している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	・職員間でお互いの関わり方を見直すためにビデオ撮影をし、それを教材として使用することで、客観的に評価を行い質の向上に努めている。 ・全職員が共感と受容を大切にしている。 ・痴呆に関する図書やビデオを、自由に閲覧できるようにしている。 ・ひとつのトラブルを契機に、同じことを繰り返さないように、また次に新たなトラブルをおこさないように、予防策を職員が検討し共有している。		